

朝鮮京城事変ニ付辦理公使花房義質
一訓條案別紙ニ通取調附具致度也
至急裁令致成度也
明治十五年八月下

外務部上諭

太政大臣三條實美殿

上申之旨

明治十五年八月二日

花房公使、訓條

七月廿三日朝鮮京城ノ事変報告ノ趣ニヨリ更ニ特別
ノ命令ヲ下シ京城ニ進行シ朝鮮政府ト談判ヲ開カシ
ムルニ付其方向ヲ示ス為メ内閣ノ議ヲ經訓條ヲ附ス
ルヲ左ノ如シ

朝鮮兇徒ノ所為ハ頗ル慘暴ヲ極メ我國領ヲ汚スコト少カ
ラス而シテ朝鮮政府ノ鎮壓ニ怠慢ニシテ交際ノ情誼ヲ重
セサルハ已ニ其罪ヲ問フニ足ルト雖但タ新タニ外交ヲ開クニ當リ
物議洵々從テ内乱ヲ醸成スルニ至ルハ東方各國ノ均シク經歷
スルトコトニシテ免レサルノ事情タルハ今般ノ事変ノ如キモ亦

之ヲ公法ト情誼トニ照シ宜シク朝鮮政府ニ責ルニ相當ノ謝罪及
ヒ要償ヲ以テスヘクシテ未タ之ニ因テ俄ニ兵馬ノ力ヲ藉リ以テ其
國ノ蹂躪スルノ極点ノ處分ヲ施スニ至ラサルヘシ
但シ兇徒猖獗ノ勢未タ測ルヘカラスシテ朝鮮政府ノ鄰誼ヲ
顧ミ交際ヲ保續スルモ亦タ未タ預知スベカラザルカ故ニ今陸海
軍兵ヲ派シ重大ノ使命ヲ以テ護衛シ以テ危險ヲ冒シテ京城ニ進行
スルニ備ヘ如シ不虞ノ変アルハ進退自ラ以テ護スルニ便ナラシム政府
ノ陸海軍將校ニ下セル命令並ニ陸海軍卿ノ内訓別紙ニ具ス
ルトコロノ如シ

此非常ノ変ニ際シ兩國ノ為ニ紛難ヲ解キ更ニ和平ノ大局

ヲ全クシ又我國旗ノ辱ヲ回復シ相當ノ處分ヲ得テ以テ我臣
民ノ心ヲ満足セシムルハ實ニ使臣ノ大任トス而シテ朝鮮ノ現
狀種々ノ場合アルニ對シ我臨機ノ處分モ亦一樣ナルベカラ
ス今畧ホ彼ノ情形如何ヲ區別シテ以テ我辦理ノ目的ヲ示ス
一左ノ如シ

此事變ハ兇徒ノ朝鮮政府ニ對スル暴動ナルヤ又ハ單日本
官民ニ對スルノ暴動ナルヤ最初ニ之ヲ區別スルヲ要ス
若シ朝鮮政府ニ對スル暴動ナルハ更ニ左ノ二ツノ場合ヲ
區別スベシ

第一 政府ハ已ニ兇徒ヲ誅鋤シタルハ

第二政府ト兇徒ト未タ勝敗ノ局ヲ分ケタルハ

右第一ノ場合ニ於テハ直ニ朝鮮政府ト相當ノ談判ニ及ブ
時機ヲ得タリトス

第二ノ場合ニ於テハ我ハ姑ク局外ニ立チ陸海軍兵ヲ以テ專ラ
開港所ヲ占有シ我在留人民ヲ保護シ彼内亂終局ヲ待テ政
府又ハ新政府ト更ニ談判ヲ開クハシ但シ其間政府ト開談ノ機
會アルヲ得ルトキハ從テ照會又ハ面晤ヲ以テ我要求ヲ提出シ逼ル
時日ヲ期シテ兇徒ヲ討滅シ我カ國ニ對シ満足ヲ與フルノ怠慢ナ
ルベカラサルコトヲ以テスベシ若シ鄰交ノ情誼ヲ以テ政府ヲ援助
シ其内事ニ干渉スルニ至テハ公法外應變ノ處分ニシテ今豫メ

之ヲ言明シ難シ

若シ草ニ日本官民ニ對スル暴動ナルハ朝鮮政府ノ責重
キ者トス此時ハ左ノ三ツノ場合ヲ區別スハシ

第一 朝鮮政府ハ日本ニ對シ不良ノ心ナシト雖モ其防
禦ノ力及ハサルニ出タルハ

第二 政府ハ兇徒ノ暴動ヲ知覺シナカラ防遏ヲ怠リ又
ハ事後ノ處分ヲ怠リ交際ノ親誼ヲ忘却シタル
ノ事蹟アルハ

第三 政府ハ兇徒ト一致シタル時、例ハ政府又ハ當局
者ヨリ兇徒ヲ教唆シタルノ証アルハ

右第一ノ場合ニ於テハ朝鮮政府ハ我國ニ對シ怠慢ノ責ヲ
免レサルベシト雖モ其事情原諒スベキアルヲ以テ我カ要求
スルトコロモ亦公平至当ヲ要シ最重ノ極点ニ出サルベシ
第二ノ場合ニ於テハ朝鮮政府モ亦我國旗ヲ汚ス責ニ任
スベキヲ以テ我要求ハ重大ノ点ニ於テシ我談判ノ氣勢モ亦
迅急快烈ナルヲ妨ケサルヘシ

第三ノ場合ニ於テハ我カ辦理ハ極メテ激迫ナルヲ要シ
強償ノ處分ニ出平和處分ノ範圍ノ外ニ在ルハ避クベカ
ラサル事機ナリト以上彼レノ種々ノ情形未タ概知ス
ベカラスシテ從テ我使臣ノ取ルトコロノ位置直モ亦一定ナ

ルハカラサルヲ以テ政府ハ使臣ニ委任スルニ臨機ノ辦理
處分ヲ以テシ事宜ニ隨ヒ緩急操縦スルトコロアラシム
使臣ハ宜シク政府ノ命令ヲ奉スルヲ急ラス派スルトコ
ロ陸海軍ト共ニ直チニ仁川港ニ進ミ上陸ノ後先ツ彼ノ
同文司ニ照會スル文簡ヲ發シ近藤領事ヲシテ仁川府
使ニ附シテ政府ニ送致セシメ同時ニ別段ノ情狀ヲ見出
サハルハ陸海軍ト共ニ直チニ京城ニ進ミ彼ノ相当ノ全権
アル高等官吏ニ面議ヲ要シ時日ヲ期シテ我満足ノ處
分ヲ求ムヘシ

此時ニ當リ兇徒若シ更ニ乱暴ヲ逞クシ不意ノ侵犯ヲ

為ルカ如キアラハ朝鮮政府ノ處置如何ニ拘ハラス我護
衛ノ軍隊ヲ以テ充分ニ鎮壓ノカヲ尽シ以テ懲罰ヲ示ス
一ヲ妨ケサルヘシト雖モ未タ朝鮮政府ニ向ヒ宣戰ノ場合
ニ至ラサルヲ以テ使臣ハ尚ホ平和ノ位置ヲ保チ進退自ラ
保護スルニ止マル一ヲ要スハシ

若シ朝鮮政府ニ於テ我カ好意ヲ抛却シ先徒ノ障碍
ヲ受ルニ非スミテ使臣ヲ接待セサルカ又ハ忽フハカラサル無禮
ノ接待ヲ為シ又ハ開議ノ後モ猶言ヲ左右ニ寄せ故意先
徒ヲ庇蔭シテ之ヲ處分セズ又ハ我カ要求ノ談判ヲ承
諾セサルハ已ニ彼レヨリ和平ヲ破ルノ心跡明白ナルヲ以

テ我政府ハ已ムヲ得ス我カ至當ト認ムトコロノ軍後ノ
處分ニ出ルノ一方アルノミ此場合ニ至テハ使臣ハ最末ノ書
簡ヲ以テ具サニ彼國ノ罪ヲ声明シ陸海軍ト共ニ仁川港
ニ引退シ便地ヲ佔據シ迅速ニ事狀ヲ具申シ以テ政府
ノ大令ヲ待ツベシ

若シ萬一又ハ其ノ他ノ各國ヨリ関涉シ仲裁ヲ申入ル
一アルハ使臣ハ政府ヨリ外國ノ干預ニ應スルノ命令ヲ得
サルヲ以テ明カニ之ヲ拒辭スベシ

想フニ朝鮮政府ハ素ヨリ和ヲ傷ルノ意アルニ非ルハ我政府ノ
信スルトコロナレバ使臣ノ誠意ヲ以テ再ヒ兩國ノ大局ヲ保全シ

又テ将来ノ為ニ永遠ノ善良ナル交際ヲ得ルニ至ラバ其
要求ト保証ノ條約ヲ併セテ彼國相当ノ大臣ト便宜ニ換
約シ以テ批准ヲ請フノ全權ハ我政府ノ使臣ニ附與スルトヨ
ナリ

開議ニ先チ堀本中尉以下ノ安否ヲ探聞シ及金山元山津
仁川各港ノ在留人民ヲ保護スルハ使臣ノ尤モ注意スベキ
所ニシテ茲ニ詳悉ヲ要セズ

外務卿

外務卿上申辦理公使花房義質一
訓狀按之事

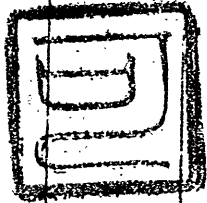
右謹テ裁可ヲ仰ク

明治十五年八月二日

太政大臣三條實美

右大臣岩倉具視

參議大木喬任



訓正官

参議 山縣有朋

参議 井上馨

参議 山田顯義

参議 松方正義

参議 川村純義

参議 福岡孝弟

参議 佐木高行

明治十五年八月一日

大臣

内閣書記官

外務卿上申辦理公使花房義質
訓狀按之事
右田議供不

参議

伊藤

山縣

井上

山田

松方

川村

福岡

佐木

花房

別紙外務省上申辦理公使花房義實
訓状案に通御裁可可相成哉仰允裁
候也

御指令案

上申之通

明治三十五年八月二日

朝鮮政府ニ對スル要求ノ件

第一

朝鮮政府ハ其ノ怠慢ノ責ニ任シ我國ニ向テ文書ヲ
以テ謝罪ノ意ヲ表シ并ニ左ノ件件ヲ履行スベシ

第二

我要求ヲ受テシヨリ十五日内ヲ期シ兎徒ノ黨類ヲ
拿捕シ我政府ノ満足スル嚴重ノ處分ヲ行フベシ

第三

遭難者ノ為ニ相當ノ賠償ヲ為サシムベシ

第四

條約違反及出兵用意ノ費ニ對シ賠償ヲナスベシ賠償ノ高ハ我準備ノ實費ニ準スヘシ

第五

將來ノ保証トシテ朝鮮政府ハ今ヨリ五年ノ間我カ京城駐在公使館ヲ守衛スル為ニ充分ナル兵員ヲ備フベシ

第六

我商民ノ為ニ安邊ノ地ヲ以テ開市場トナスベシ

第七

以下三條口授ニ付ス

(若シ朝鮮政府ノ過失重大ノ事情アルハ)巨濟島又ハ松島ヲ以テ我國ニ讓與シ謝罪ノ意ヲ表セシムベシ

第八

(若シ朝鮮政府中兇徒ヲ庇護スルノ事跡アル主謀者ヲ見出スハ)政府ハ直ニ其ノ主謀者ヲ免黜シテ相當ノ處分ヲナスヘシ

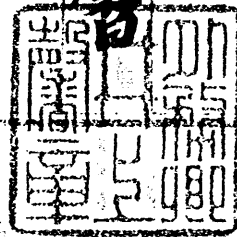
第九

彼ノ情狀至重ノ場合ニ於テハ強償ノ處分ニ出ルハ臨機ノ宜ニ從フ

本月一日ヲ以テ上申裁下相成候花房公
 使訓條案中特別ニ記載シタル朝鮮政
 府ヘ對スル要求ノ件ハ畢竟彼國政府ノ暴
 徒ニ於ケル關係ノ種々ノ事情ニ依リ其責ニ
 輕重、區別アルベキノ情理ニシテ若シ其責輕ケ
 レハ我要求モ從テ輕カラサルヲ得ス其責重ケ
 レハ我要求モ從テ重カラサルヲ得ス今日彼
 國ノ情狀未タ詳悉ナラズ彼政府ノ暴徒ニ
 於ケル關係未タ明瞭ナラサル、時ニ於テ豫メ
 一睽、條款ヲ定メ必ス之ニ徇由セシメテ其權
 度ヲ輕重セシムルヲ能ハザラシムルハ庸議ノ

主意ニ非カルヘシ依テハ朝鮮政府實際ノ
情狀ニ應ジテ權度輕重ヲ酌量スルノ活用
ハ是ヲ公使ニ委任セラルベク從テ公使ニ面晤
ノ便宜ヲ以テ此特別記載ノ條件ハ專ラ
本官ニ御委任有之度此段特ニ上申候也
明治十五年八月二日

外務卿井上馨



太政大臣三條實美殿

奉 答

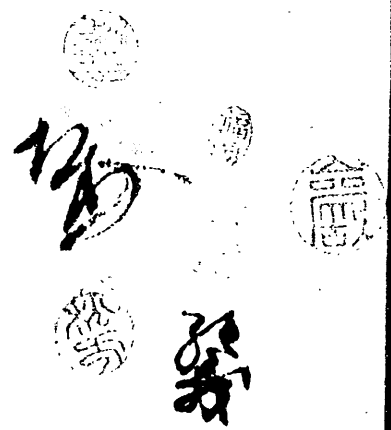
談判激迫ノ際ニ至レハ我軍隊ヲ以テ作
中事^開中^所上^所港ヲ佔據シ或ハ時機ニ依リ江
華島等ヲ佔領シテ以テ要償ノ抵當トス
コト公法上ノ許ス所ナルベシ右ハ外務卿（臨機
委任ノ範圍ニシテ）花房公使ノ訓條中ニ已
具載スル所ナレバ果シテ右強償ノ處分ヲ
実行スルニ至ルトキハ我カ軍艦ノ將官ヨリ清
米英三國ノ軍艦朝鮮港ニ屯駐セルノ將官

ニ強償處分ノ公告ヲ送ルコト必要ナリトス、
依テ、別紙ホアソナド氏ニ命シ、試草セシムル所ノ
文案ヲ以テ、漢英西様ニ翻譯セシムル、外務卿
ヨリ花房公使ニ内授シ、臨機ノ用ニ充ツベシ
但シ右ハ海軍卿ヨリ軍艦將官ヘ下付スルコト
當然ナリト雖モ、事專ラ談判ノ時機ニ関ル
ニ由リ、公使ニ内授セラレ、臨機ニ將官ニ交
付シ施行スルコト可然歟

明治十五年八月七日

糸澤山影右所

八月七日
節強硬ノ説明



一 強償ノ處分ハ即チ花

房公使ノ訓條中ニ指示

ス所ノ談判東末ノ時ノ處

分ニシテ未タ宣戦ノ場合

ニ至ラズ

一 訓條~~ニ依~~中ノ

政府ト先徒ト未タ勝敗ノ

局ヲ分ルルヨリニ陸海

軍兵ヲ用テ開港所ヲ占

メ我在留人民ヲ保護シ彼

内訌終局ヲ待ツ

又 政府先悉ト

に我在留人民ヲ保護し彼
内亂終局ヲ待ツル

又政府先待上段シタリ

我辨理ハ極メテ激迫ナ

ク要シ洛償ノ處分ニ出テ

和處分ノ範圍ノ外ニ在リ

右西條ノ場合ニ於テ施行

所ナリ

此洛償ノ處分ヲ行フトキハ

其地ニ在留スル外國船舶多

ク關係ヲ生スルニ付其艦

ニ向ヒ豫メ我カ主立目的

明白ニ公明スルヲ必要トス右

此等債ノ處分ヲ行フトキハ
其地ニ在留スル外國船舶多
ク關係ヲ生スル^ルニ付其艦中
ニ向ヒ豫メ我カ主立目的ヲ
明白ニ公明スルヲ必要トス右
公明ヲ為スハ即チ我カ海軍將
官ヨリ施行スベシ
但右施行ノ順序ハ專ラ談判
ノ都合ニ依ルコトナレハ我カ使
ニ於テ内授ヲ得臨機ニ將官
ト示談シ之要ノ場合ニ限リ
之ヲ發付スベシ

機密第廿七号 信相認候後午後三時頃東京
府使突然来館政府ヨリ公書ヲ奉シタル間其
為、来館致シタル旨申聞別紙寫、訓令本書ヲ
示レ相此度、事変ハ全ク内亂ニ属スル所余煽
遂、貴國ノ公使館ニ及候政府ニ於テモ多數ノ大
員其殃ニ罹リ兵卒ハ尽ク叛徒タルヲ以テ其保
護ニ不行届段真以テ氣、毒千萬、次第ニ
付早速貴政府ヘ書契モ可差出候得共先
急ニ此意ヲ領事館ニ通知シ本國ニ報知
方依頼可致ト、命令有之候旨申聞尚前
余ノ意味ヲ種ニ并解候内本使大院君ヨ
リ私書ヲ轉送其意味此度、事ハ全ク朝